

# パターン・マイニングを通じた文化理解方法の提案 Generative Beauty Workshop を事例として

雀部 亜莉子 \*1, 洪 齊嬉 \*1, 小暮 桜子 \*1

赤土 由真 \*2, 猿渡 敬志 \*3, 井庭 崇 \*2

\*1 慶應義塾大学 環境情報学部

\*2 慶應義塾大学 総合政策学部

\*3 花王株式会社 感性科学研究室 2 室

## 概要

本論文では、人々の日常生活における行動、そしてその背景にある考え方や取り組み方を、Problem と Solution からなる「パターンの種」として抽出し、そこから生活文化を理解するという方法を提案する。本論文では、日本、韓国、米国において「いきいきと美しく生きる」ことをテーマとして行ったワークショップを事例とし、それぞれの結果の共通点や差異から、その方法の有効性の一端を示す。

## 1. はじめに

人はそれぞれ日々の生活におけるこだわりや秘訣を持っている。私たちはこれまでの研究において、そのような秘訣をパターン・ランゲージとして言語化することに取り組んで来た (Kobayashi, et al., 2008; Naruse, et al., 2008; Iba, et al., 2009; Iba and Miyake, 2010; Iba and Sakamoto, 2011; Iba, et al., 2012; Iba and Isaku, 2013; Furukawazono, et al., 2013; Iba and Isaku, 2014; Iba et al., 2015)。そのなかの一つの成果に、本論文が取り上げるテーマとなっている「女性がいきいきと美しく生きる」ことについての秘訣をまとめた「Generative Beauty Patterns」がある (Arao, et al., 2012; 井庭崇研究室 Generative Beauty Project, 2012)。

これまで私たちが約 10 年のあいだにつくってきたパターンは、すべて日本において日本人からマイニングされたパターンである。そのような日本発のパターンを英語で書き直し、海外で発表するときいくつかの反応があることに気づいた。一つは、日本以外の国・文化圏からの参加者にとっても多くのパターンは共感できるということであった。その一方、パターンのなかには、「日本らしい考え方だ」「自分 (の国・文化の人) はしない」と言われるものもいくつかあった。興味深いのは、そのようなパターンは、自分たちがしないから重要ではないというのではなく、文化的な影響があるから面白い、という反応だったことである<sup>1</sup>。このような経験から私たちは、日常生活におけるこだわりや秘訣をパターンとしてマイニングしたときにどのような共通点や

---

<sup>1</sup> このような指摘は、ライターズ・ワークショップや personal communication において、特に Richard Gabriel や Jenny Quillien によってなされている。

差異が表れるのか、ということに関心をもつに至った。

しかしながら、私たちが他の国や文化圏の人々に、私たちが行っているようなホリスティック・マイニング (Iba and Isaku, 2012) によってパターンを抽出・記述してもらうということは、そのプロセスが重いプロセスであることから現実的とは言えない。一方、マイニング・インタビュー (Iba and Yoder, 2014) によって個人からマイニングするというのも、効率や実行可能性の面で難しい。そこで、私たちは、2・3 時間程度の時間のなかで複数人から多くの「パターンの種」をマイニングする、新しいパターン・マイニング・ワークショップの方法 (小暮ほか, 2015) を考案し、実践することにした。

本論文では、そのパターン・マイニング・ワークショップを「女性がいきいきと美しく生きる」をテーマに日本、韓国、米国の3カ国で実施した結果を報告するとともに、その結果から示唆される文化理解の可能性について論じていく。

## 2. パターン・マイニング・ワークショップ

パターン・マイニング・ワークショップ「自分らしくいきいきと美しく生きるためのワークショップ」では、「自分らしくいきいきと美しく生きる」経験則を、参加者の対話から引き出された秘訣や悩みが可視化しながら、対話の発展の足跡を残して抽出する。このとき、参加者は自らの秘訣だけでなく、悩みも共有する。これにより、秘訣はパターンの **Solution** の情報源となり、悩みはパターンの **Problem** の情報源となる。

このワークショップでは、「パターンの種」をマイニングすることが目的であるため、分析的な思考が求められる **Force** の特定や、パターン内容の文章としての記述、パターン名の名づけ等を行わない。その代わりに、パターンの記述はワークショップ後に、その場を仕切っていて内容について理解している私たちメンバーが行う (図 1)。このワークショップでは、2・3 時間で収めるという「時間の制約」と、参加者にとってはパターンをつくる目的で集まっているのではなく、秘訣の共有や悩みの解決を目的としている「参加者の動機」の両面から、そのような方法を採用している。しかしこれは特殊なことではなく、ホリスティック・マイニングやマイニング・インタビューにおいてもマイニング段階ではそこまで特定しないということからも、妥当なことであると思われる。なお、このワークショップの方法についての詳細・議論については別の論文 (小暮ほか, 2015) で行っているため、そちらも参照してほしい。

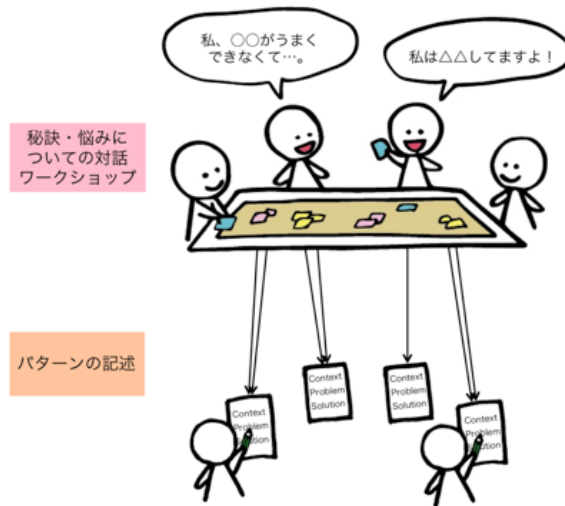


図1 パターン・マイニング・ワークショップとパターン・ライティングの関係

### 3. 日本・韓国・米国でのワークショップの実施

いま紹介してきたパターン・マイニング・ワークショップを、「自分らしくいきいきと美しく生きる」をテーマに、日本、韓国、米国で実施した（図2, 3, 4）。どれも2014年に実施し、日本では藤沢と東京で計5回学生と社会人、韓国では8大学の学生、そして米国ではノースカロライナ大学アッシュビル校で学生と教員を対象に実施した。それぞれの国の合計参加者数は、日本は70人、韓国は8人、アメリカでは25人であった。

ワークショップの結果、日本では290個、韓国では40個、アメリカでは147個の「パターンの種」が得られた。得られたパターンの一部は、表1のようになる（これらのパターンについては、付録により詳細な情報を記載している）。これらはあくまでも全体のなかでの一部であり、それぞれの国で抽出されたパターンを代表しているものではないということを、あらかじめ明記しておく。



図2 日本でのパターン・マイニング・ワークショップ



図3 韓国でのパターン・マイニング・ワークショップ



図4 米国でのパターン・マイニング・ワークショップ

表1：日本・韓国・米国のそれぞれで抽出されたパターンの一部：パターン名とその概要

国	パターン名	概要
日本	身につけ続ける	自分に似合うかどうかは気にせずに、好きな色・好きなアイテムを身につけ続けてみる
	自分へのご褒美	目標を達成した後のために自分へご褒美を用意しておく
	親しき仲にも距離感	親しい友人とも時には距離を置くことで自分を優先させる
	断り上手	優先順位の低い予定を切り捨てるだけの勇気を持つ
	まずは自分から	初対面の相手とは、まず自分から話しかけて自分を知ってもらう
韓国	心の友	失敗を恐れないために、いつも自分の味方になってくれる人を作る
	サイズガイド	サイズ表を用いて自分の身体のサイズを測っておき、ネットショッピングに役立てる
	はじめの一歩	初対面では、相手が話してくるのを待たずに、自分から相手に歩み寄る

アメリカ	着心地チョイス	肌触りや体型を重視し、自分が心地よくいられるかを考えて服を選ぶ
	アイ・コーデ	目の色の明度や彩度に合わせたコーディネートが心がる
	前向きセルフトーク	落ち込んだとき、自分の長所や強みを自分自身に語りかける
	断る勇気	必要に感じられないことに対し、「NO」と発言する

最初に、日本で抽出されたパターンから見ていくことにしたい。「身につけ続ける」は、自分に似合うかどうかは気にせずに、好きな色・好きなアイテムを身につけ続けてみることである。最初は似合わないと思っていた色やアイテムも、身につけ続けることで、段々とそれに従ってその人のイメージが作られ、自分色になっていく。自分色になれば、最初は似合っていないと感じられたアイテムも似合っていると感じてくる。「自分へのご褒美」は、目標を達成した後のために自分へご褒美を用意しておくことである。達成後に楽しみがあると思うことによって、目標へのやる気生まれる。「親しき仲にも距離感」は、親しい友人とも時には距離を置くことで自分を優先させることだ。自分を優先して、自分の時間を守ることも必要であり、距離感を置くことに抵抗がなくなれば、友人の気持ちに囚われすぎず自分を大切にすることにつながっていく。

続いて、韓国で抽出されたパターンをみていこう。「心の友」は、いつも自分の味方になってくれる人を作ることである。落ち込んだ時、心の友と話すことで自信を取り戻し、もっと頑張りたいと思えるようになる。そして、心の友という戻れる場所があるから、失敗が怖くなるのである。「サイズガイド」は、サイズ表を用いて自分の身体のサイズを測っておくことで、ネットショッピングに活かすことである。その場のショッピングだけでなく、ちょっとした自分の体型の変化を常に把握でき、自己管理にもつながる。

最後に、米国で抽出されたパターンは次のようなものである。「着心地チョイス」は、肌触りや体型を重視し、自分が心地よくいられるかを考えて服を選ぶことだ。流行を中心に考えない着心地の良い服で過ごす、心も身体も開放的になり元気になれるのである。「アイ・コーデ」は、目の色の明度や彩度に合わせて服を選び、目の色を引き立てるコーディネートが心がることである。生まれもったものを活かすことで、自分の魅力を最大限引き出すことができる。「前向きセルフトーク」は、自分で自分の背中を押すように、自分の長所や強みを語りかけることだ。自分の力で自信を取り戻し、前向きになることができる。

以上が、それぞれの国で抽出されたパターンの一部の紹介であった。

#### 4. パターン・マイニングを通じた文化理解の方法とその可能性

ここからは、パターン・マイニングを通じた文化理解の方法とその可能性について考えていきたい。本論文の冒頭で述べたように、パターンには、国・文化に依存しないより一般性の高いものと、国・文化に依存するものがあるように思う。そのことは、逆に言えば、抽出したパターン

を媒介として国や文化の特徴を透かし見ることができる可能性があることを示唆する。そこで、以下では、上述のパターン・マイニング・ワークショップで得られた「パターンの種」を例に、国・文化の共通点を理解したり、差異を理解したりする方法について提案する。

なお、あらかじめ明記しておくが、本論文では、以下で示す具体的なパターンの共通・差異の結果が、そのまま国・文化の違いであると主張したいわけではない。そのような主張は、マイニング対象の人数が少ないことや、参加者のデモグラフィックな特性をコントロールしていないことから現段階では難しい。本論文の主眼は、比較結果における国・文化の特徴を主張することではなく、パターン・マイニングを通じた文化理解の方法の提案にある。以下で取り上げるパターンやその比較の考察は、あくまでも説明のための例だと捉えてほしい。

#### 4-1. 抽出されたパターンの共通点

はじめに、それぞれの国のワークショップで抽出したパターンの共通点について見ていきたい。まず、日本の「断り上手」とアメリカの「断る勇気」の比較である。「断り上手」は、優先順位の低い予定を切り捨てるだけの勇気を持つことだ。「断る勇気」は、必要に感じられないことに対し、“NO”と発言することだ。双方は、自分のための時間を守るためにNOと言う勇気を持つことを推奨しており、これらは類似していると言えるだろう。

次に、日本の「まずは自分から」と韓国の「はじめの一步」も共通の内容となっている。どちらも、初対面の状況下で相手を知るためのパターンである。「まずは自分から」は、まずは相手に自分について知ってもらうことを示している。「はじめの一步」も、自分から相手に歩み寄ることを示しているため、類似していると言えるだろう。

#### 4-2. 抽出されたパターンに見られる固有の特徴

それぞれの国のワークショップで抽出したパターンのなかには、国や文化の違いが表れていると思われる特徴がみられるものがある。

例えば、米国で抽出された「アイ・コーデ」は、目の色の明度や彩度に合わせたコーディネートを中心にというパターンである。しかしこのパターンは、日本や韓国では抽出されないと予想される。なぜなら、アジア諸国の人々は黒や焦げ茶などダークカラーの目をしているためか、服を選ぶ際に目の色を参照するという発想は聞かないからである。

他にも、韓国の「サイズガイド」はネットショッピングが普及している韓国ならではのパターンと言えるかもしれない。日本でショッピングというと店舗で試着をして購入を検討するのが一般的であるが、韓国では近年ネットショッピングが各国で浸透しつつある。そのため、このようなパターンが出てきたと考えられる。

また、日本の「自分へご褒美」と米国の「前向きセルフトーク」を比較すると、自分自身の励まし方という点において相違があるように思われる。「自分へご褒美」は、目下の課題にやる気が出ない際に、課題が終わった後の自分へご褒美を準備しておくことである。一方、「前向きセ

セルフトーク」は、落ち込んだ際に自信を失わないように、自分の長所や強みを自分自身に語りかけることである。自分を励ましたいとき、前者がまわりのものからきっかけを得ているのに対し、後者は自分自身からきっかけを得ているという違いがある。

さらに、Solution は同じでも、それを具体化した Action のレベルで異なっているパターンもあった。その例として、「Generative Beauty Patterns」(井庭崇研究室 Generative Beauty Project, 2012) に収録されている「気分回復」というパターンがある。これは、明るい気分を取り戻す自分なりの方法を見つけるというパターンである。日本では好きな音楽を聴いたり、美味しいものを食べたりすることが挙げられていたが、韓国では辛いものを食べることによって「気分回復」をしているという。このように、同じパターンの中でも、国や文化によって異なる Action が見られることがあるだろう。

今回のワークショップの結果を、共通点や差異を考えながら、私たちなりにマッピングしたものが図 5 である。この図は、ワークショップ参加者によるものではなく、あくまでも私たちなりのマッピングにすぎない。ただし、本論文の著者のなかには韓国人がいること、そして米国での生活経験がある者もいることから、日本人による主観的なマッピングというよりは、それぞれの国・文化に寄り添うかたちでのマッピングを心掛けてはいる。とはいえ、これは出発点にすぎない。このようなマッピングされたパターンを、さらに日本・韓国・米国の人々と見ながら、これらが実態に近い内容になっているのかを確かめる必要がある。それは本研究の今後の課題である。

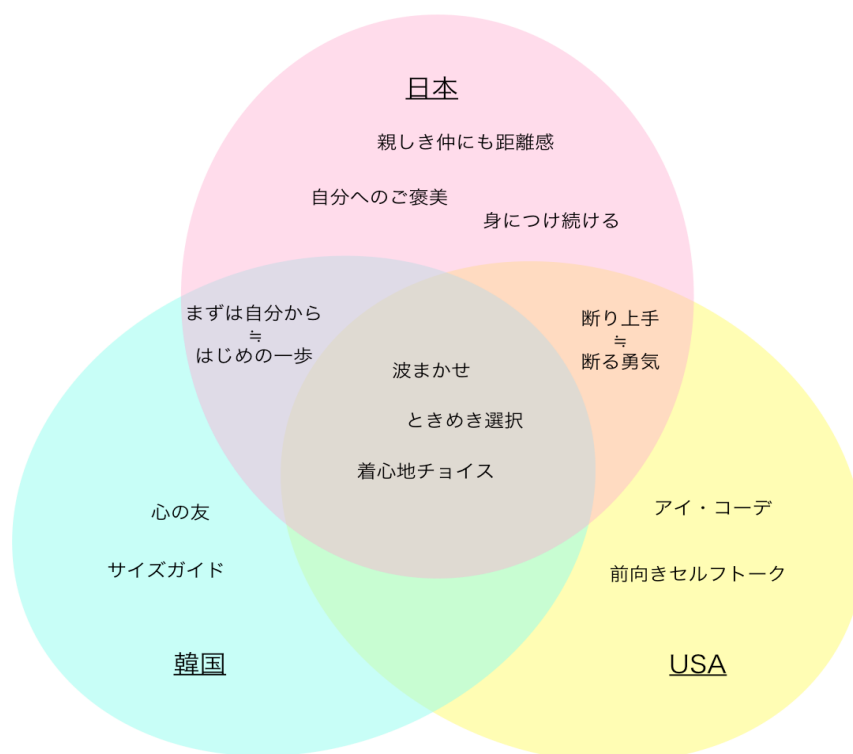


図 5 日本・韓国・米国で抽出されたパターンのマッピング

## 5. おわりに

人々の日常生活における行動、そしてその背景にある考え方や取り組み方を「パターンの種」として抽出し、そこから生活文化を理解するという方法を提案してきた。そのとき、日本、韓国、米国において「いきいきと美しく生きる」ことをテーマとして行ったワークショップを事例とし、それぞれの結果の共通点や差異から、その方法の有効性の一端を示した。今回は限られた回数・国での例であったが、このような取り組みを世界各国で行い、パターンの種を集めていくことによって、生活上の実践知の文化比較ができるようになるのと考えられる。本論文がその一歩となれば幸いである。

## 謝辞

本論文を執筆するにあたり、ノースカロライナ大学アッシュビル校でのワークショップを快諾して下さった、Mary Lynn Manns 教授に感謝いたします。また、本研究を進めるにあたり、様々なご支援を頂いた花王の酒井進吾さん、引間理恵さん、Generative Beauty Patterns を作成したメンバーにも感謝します。そして、ワークショップに参加し、様々なアイデアを提供して下さった参加者の皆様にも感謝いたします。最後に、本論文をよりよいものにするために、丁寧に読みコメントをくださった本橋正成さんに感謝いたします。

## 参考文献

- Arao, R., Tamefusa, A., Kadotani, M., Harasawa, K., Sakai, S., Saruwatari, K., and Iba, T. (2012) "Generative Beauty Patterns: A Pattern Language for Living Lively and Beautiful," in *the 19th Conference on Pattern Languages of Programs (PLoP2012)*.
- Furukawazono, T., Seshimo, S., Muramatsu, D., and Iba, T. (2013) "Survival Language: A Pattern Language for Surviving Earthquakes," in *the 20th International Conference on Pattern Language of Programs (PLoP2013)*.
- Kobayashi, Y., Yoshida, M., Sasaki, A., and Iba, T. (2008), "Research Patterns: A Pattern Language for Academic Research," in *the 15th Conference on Pattern Languages of Programs (PLoP08)*.
- Naruse, M., Takada, Y., Yumura, Y., Wakamatsu, K., and Iba, T., "Project Patterns: A Pattern Language for Promoting Project," in *The 15th Conference on Pattern Languages of Programs (PLoP08)*.
- Iba, T. and Isaku, T. (2013) "Collaboration Patterns: A Pattern Language for Creative Collaborations" in *the 18th Conference on Pattern Languages of Programs (EuroPLoP2013)*.
- Iba, T., Matsumoto, A. and Harasawa, K. (2012a) "Presentation Patterns: A Pattern Language for Creative Presentations," in *the 17th European Conference on Pattern Languages of Programs (EuroPLoP2012)*.
- Iba, T., Miyake, T., Naruse, M., and Yotsumoto, N. (2009) "Learning Patterns: A Pattern Language for Active Learners", in *the 16th Conference on Pattern Languages of Programs (PLoP2009)*.
- Iba, T. and Miyake, T. (2010) "Learning Patterns: A Pattern Language for Creative Learners II," in *the 1st*



*Asian Conference of Pattern Language of Programs (AsianPLoP2010).*

Iba, T. and Sakamoto, M. (2011) "Learning Patterns III: A Pattern Language for Creative Learning," in *the 18th Conference on Pattern Languages of Programs (PLoP2011).*

Iba, T., and Isaku, T. (2012) "Holistic Pattern-Mining Patterns: A Pattern Language for Pattern Mining on a Holistic Approach," in *the 19th Conference on Pattern Languages of Programs (PLoP2012).*

Iba, T. and Isaku, T. (2014) "Presentation Patterns: A Pattern Language for Creative Presentations, Part I," in *the 10th Latin American Conference on Pattern Languages of Programs (SugarLoafPLoP2014).*

Iba, T. and Yoder, J. (2014) "Mining Interview Patterns: Patterns for Effectively Obtaining Seeds of Patterns," in *the 10th Latin American Conference on Pattern Languages of Programs (SugarLoafPLoP2014).*

Iba, T., Tamaki, N., Matsumura, T., Kaneko, T., Kamada, A., and Okada, M. (2015) "Words for a Journey: A Pattern Language for living well with Dementia," in *the 20th European Conference on Pattern Language of Programs (EuroPLoP2015).*

井庭 崇, 井庭研究室, 『プレゼンテーション・パターン：創造を誘発する表現のヒント』, 慶應義塾大学出版会, 2013

井庭研究室 Generative Beauty Project (2012) Generative Beauty Patterns, *SFC Open Research Forum 2012 (ORF2012).*

小暮桜子, 雀部亜莉子, 洪齊嬉, 赤土由真, 猿渡敬志, 井庭崇(2015) 「自分らしくいきいきと美しく生きるための秘訣を対話のなかから抽出するパターン・マイニング・ワークショップ」, in *the 4th Asian Conference on Pattern Languages of Programs (Asian PLoP2015).*

## 付録：各国のワークショップで抽出されたパターンの一部

### 日本でのワークショップで抽出したパターン

#### 身につけ続ける

[Context] 自分が好きな色や系統を身にまといたい。

[Problem] 自分が好きな色や系統と、周囲から似合うと言われるものが異なる。

[Force] 自分に似合う色と、好きな色は必ずしも同じではない。

[Solution] 自分に似合うかどうかは気にせずに、好きな色・好きなアイテムを身につけ続けてみる。

[Consequence] 身につけ続けるうちに、段々とその人の好きな色・ファッションに従ってその人のイメージがつかわれていく。その人のイメージがつかられると、最初は似合っていないと感じられたアイテムも似合っていると感じてくる。

#### 自分へのご褒美

[Context] 目標を達成したい。

[Problem] やる気が起きず、達成できないことが多い。

[Force] やる気や集中力を保つのは難しい。面倒に思えるときは後回しにしてしまいがち。

[Solution] 目標を達成した後のために自分へご褒美を用意しておく。

[Consequence] 目標達成が楽しみになり、やる気が起きる。

#### 親しき仲にも距離感

[Context] 自分を大切にしたいけど、友人も大切。

[Problem] 友人の気持ちが気になりすぎて、自分を大切にできなくなってしまう。

[Force] 大切だからこそ申し訳ないという思いがよぎる。

[Solution] 親しい友人にも時には距離を置くことで、自分を優先させる。

[Consequence] 友人の気持ちに囚われすぎることなく、必要な時は自分を優先して、自分の時間を守れるようになる。

#### 断り上手

[Context] 予定がたくさん入ってしまいそう。

[Problem] 確保していたはずの自由な時間が急な予定や仕事で埋まり、自分のための時間がつくれない。

[Force] 断るのは相手に悪い、という考えをしがち。すべて受け入れるには、時間が足りない。

[Solution] 優先順位の低い予定を切り捨てるだけの勇気を持つ。

[Consequence] 断ることで自分に余裕が生まれる。その余裕を他に活かすことができる。

## まずは自分から

[Context] 初対面の相手が目の前にいる。

[Problem] 緊張して、何を話したらいいか分からなくなる。

[Force] 初対面の相手には遠慮してしまう。相手についての情報がない。共通の話題が何か分からない。

[Solution] まずは自分から話しかけ、自分について知ってもらう。

[Consequence] 自分について話していくと、相手が共感するところで会話が生まれる。相手との共通点などが見つけやすくなり、より会話が楽しくなる。

## 韓国でのワークショップで抽出したパターン

### 心の友

[Context] 大変なことがあった。

[Problem] 一人では回復できず、自信もだんだんなくなってしまう。

[Force] 危機的状況に飲み込まれてしまう。

[Solution] いつも自分の味方になってくれる人を作る。

[Consequence] 心の友と話して自信を取り戻し、もっと頑張りたいと思える。戻れるところがあると思うことができれば、失敗が怖くなくなる。

### サイズガイド

[Context] ネットショッピングをしている。

[Problem] 試着が出来ないため、自分に似合う形やサイズの服を探すことが難しい。

[Force] ネットショッピングは情報だけ載っているため、現物を手に取って選べない。

[Solution] ネットショッピングに載っているサイズ表のレベルで、自分の身体のサイズを測っておく。

[Consequence] 失敗が少なくなり、自分にぴったりのサイズの服を安心して選ぶことができるようになる。また、ちょっとした自分の体型の変化を常に把握でき、自己管理にもつながる。

### はじめの一步

[Context] 初対面の人と話そうとしている。

[Problem] 話題が見つからず、何を話せばいいのかわからない。

[Force] 相手の情報が足りない。相手の興味が分からない。

当たり障りのない話をしても、相手のことも知れないし自分のことも知ってもらえない。

[Solution] まずは自分から歩み寄り、自分について知ってもらう。

[Consequence] 自分について話していくと、相手が共感するところで会話が生まれる。相手との共通点などが見つけやすくなり、より会話が楽しくなる。

関連：まずは自分から（日本）

## アメリカでのワークショップで抽出したパターン

### 着心地チヨイス

[Context] 自分に合う服を選びたい。

[Problem] デザインや流行りを判断基準に、客観的な選択をしてしまう。

[Force] 評価されたいという気持ちから、世の中の流行にそのまま乗っかる。

まわりから見えるのは、デザインや色。

[Solution] その服を着た時に自分が心地よくいられるかを考えて選ぶ。

[Consequence] 背伸びしない着心地の良い服でいると、心も身体も開放的になり元気になれる。

### アイ・コーデ

[Context] 身にまとうものを選んでる。

[Problem] 好きな色のものに目がいってしまうが、それが似合うとは限らない。

[Force] 色には合う組み合わせとそうでないものがある。好きな色の方が魅力的に見えるので選びがち。

見た目の大部分を占める、トップス、ボトムス、靴、肌などのバランスに注意が向いてしまう。

[Solution] 目の色を引き立てるコーディネートが心がる。

[Consequence] 生まれもったものを活かすことで、自分の魅力を最大限引き出せる。

### 前向きセルフトーク

[Context] ちょっと失敗してしまった。

[Problem] 失敗がきっかけで自分に自信がなくなってしまう。

[Force] 失敗そのものではなく、失敗をしてしまった自分に嫌悪感を抱きがち。

[Solution] 自分の長所や強みを自分に語りかける。

[Consequence] 自信を持って前向きになれる。視点が変わってネガティブなこともポジティブなことだと思えるようになる。

### 断る勇気

[Context] 何かを頼まれたり、誘われたりした。

[Problem] 自分にとって必要でなかったり、魅力に感じられなかったりすることも含まれている。

[Force] 自分が興味、主体性を持って取り組めることは限られる。

[Solution] 必要に感じられないことに対し、”NO”と発言する。

[Consequence] 自分にとって意味があることか自分で判断し、選択できるようになる。

関連：断り上手（日本）